

## 地方創生推進交付金事業における 効果検証の選択肢・判断基準、今後の取組方針について

### 《K P I の実績値・達成率に基づく各事業の評価》

交付金事業に設定したK P I の目標値に対し、K P I の実績値はどうだったか。  
また、各事業（取組）は、K P I 達成に対し、どの程度有効であったか。

非常に有効であった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ K P I の実績値、達成率が非常に高い場合 （達成率の目安：80%超）</li> <li>・ K P I 以外の効果が極めて大きい場合</li> </ul>
相当程度有効であった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ K P I の実績値、達成率が相当程度に高い場合 （達成率の目安：30～79%）</li> <li>・ K P I 以外の効果が相当程度みられる場合</li> </ul>
ある程度有効であった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ K P I の実績値、達成率がある程度高い場合 （達成率の目安：30%未満）</li> <li>・ K P I 以外の効果がある程度みられる場合</li> </ul>

※K P I の実績値、達成率を参考とする。

当初の目的やK P I 以外にも別の効果があった場合、その分も加味して評価。  
（取組により得られた効果や、事業の必要性、今後の実現可能性など）

### 《今後の取組方針》

平成29年度の取組に対する分析結果（効果・課題）やK P I の実績値・達成率を踏まえ、今後、どのように事業を展開していくか。